



平和條約問題研究資料

昭和二十一年三月

課題

一般問題

1. 平和條約締結問題基本方針

(研究試案)

政務局

外務省

平和條約締結問題基本方針

出来得ル限り早期ニ公正ナル平和條約ノ締結ヲ實現セシムルニ努ムルコト

但シ之ガ爲降伏ニ際シ日本ノ負ヘル諸義務ヲ果敢ニ履行シ日本ノ組織力ト自己能力ト平和愛好心トヲ世界ニ實證シ世界ノ日本ニ對シ抱ク猜疑、誤解、偏見、憎惡等ヲ一日モ速カニ拂拭スル爲官民一致一大猛力ヲ注グコトヲ要ス

平和條約締結ノ時期ヲ一應一九四七年央頃ト想定シ右時期ニ至ル迄ニ凡ユル準備ヲ完整シ置クコト

外務省



解除
第 1 回公開

(平和條約問題研究資料)

昭和二一、二、九

課題

一般問題

2. 平和條約締結問題ノ今後ノ成行ニ關スル
観測(研究試案)

政 務 局

外 務 省

0011

トス

第一期 (概ネ一九四六年上)
半期ヲ目途トス
| 外務省内ニ於テ研究案ヲ作成ス

第二期 (概ネ一九四六年下)
半期ヲ目途トス
| 外務省中心トナリテ關係各廳當局間ニ内面的ニ連絡ヲ保持スル機關ヲ設ケ案ヲ檢討改善ス(適當ノ時期以後民間入ヲ加フ)

第三期 (一九四七年初頭)
| 聯合國側ノ出方如何ニ依リ政府ニ於テ正式ニ問題ヲ取上ゲ所要ノ措置ヲ講ズ

外 務 省

0010

以上ノ諸點ヲ綜合シテ聯合國ノ對日平和條約問題ハ一九四七年後半期ニ於テ取上ケラルルニ非ラスヤト豫想スル（右ハ在京米人記者ニ付テ調査シタ結果トモ大體合致スルモノナリ）

以上ノ諸點ヲ綜合シテ聯合國ノ對日平和條約問題ハ一九四七年後半期ニ於テ取上ケラルルニ非ラスヤト豫想スル（右ハ在京米人記者ニ付テ調査シタ結果トモ大體合致スルモノナリ）

外務省

以上ノ諸點ヲ綜合シテ聯合國ノ對日平和條約問題ハ一九四七年後半期ニ於テ取上ケラルルニ非ラスヤト豫想スル（右ハ在京米人記者ニ付テ調査シタ結果トモ大體合致スルモノナリ）

外務省



平和條約締結問題ノ今後ノ進行ニ關スル觀察ト
之ニ對シテ本報記者團ニ對シテ(注)

第一條

第一 平和條約締結問題ノ今後ノ進行ニ關スル觀察
一 本件ニ關シテ聯合國領ノ根本問題度ノ豫測

(一) 聯合國領ハ對日平和條約ヲ交渉ノ基礎ニ依リ締結セズ其ノ
一方的ニ作成セザル條約案ニ我方ノ署名ヲ強要スルノ態度ニ
出ツベシ

(二) 聯合國領ハ平和條約締結前即チ日本占領期中ニ於テ實力ヲ
背棄トシ其ノ後スル事態ヲ出來得ル限り既成事實化スルニ
努ムベシ

是ヲ聯合國領ハ平和條約ヲ以テ新ナル事態ヲ設定スル條約
ヲラシメズ寧ろ右既成事實ヲ法的ニ確認シ之ヲ恒久化セシ
ムル手段ヲラシムルコトヲ意圖スベシ

外 務 省

平和條約締結ノ時期ニ關スル見解

(一) 平和條約ノ締結ハ聯合國領内部ニ於テ對日平和克復ノ氣運
發生スルヲ前提トス

右氣運ハ次ノ段階ヲ經テ發生スベシ

イ、對日憎惡乃至敵愾心ノ依然強ク殘存スル期間

ロ、日本ノ民主主義化ノ進捗ニ伴ヒ右敵愾心ノ漸次稀薄化
スル期間

ハ、聯合國領ニ於テ日本ヲ水ヲ國際社會ヨリ驅逐シ置クコ
トノ政治的、經濟的不利ヲ一投ニ認識シ給ムル期間

現在ハ右イ、ノ段階ニ在リト認メラレ

(二) 諸般ノ情況ニ照ラシ現在ニ於ケル豫測トシテハ平和條約締
結ノ時期ヲ概ネ五年後ト推定スル根據アリ(註)

右期間ハ今後ニ於ケル國際情勢ノ推移ニ依リ伸縮スベキニ
適量ヨリ寧ろ短縮ノ可能性アリ

（一）「一九四一年」大東亞新秩序實現期五年以内ノ聲明、明
 確此後五箇年以内ノ決意、我軍ノ日本領也期間五
 年ヲ維持スル旨發表

外務省

第一 平和條約締結問題ニ對シテ基本方針
 平和條約ノ締結ヲ促進スル爲メ、我々準備政策ノ一切ハ「ボツ
 ヌム」宣言ノ基礎且該宣言ノ履行ニ其ノ基礎ヲ置カザルヘカ
 ヌム（同宣言第十二項参照）右履行ノ促進ハ畢竟内政問題ニ
 シテ左ノ諸點ニ重点ヲ置クモノトス
 一 聯合親善ノ命令ヲ供タズ自衛的、積極的ニ同宣言ノ履行ヲ
 進メ得ル如ク國內政務ヲ整備スルコト
 二 同宣言ノ履行ニ關連シテ左ノ事項ノ實現ヲ促進スルコト
 一 民主主義化ノ途ニ沿フ政治、社會、經濟等各範圍ノ廣
 正ノ改革
 一 經濟的「ナチズム」リゼーション」及産業轉換（國內資

外務省